

早稲田大学審査学位論文  
博士（人間科学）  
概要書

在宅看護教育における批判的思考態度を育成する  
TBL 授業の設計と効果

Validation of Course Design of Team-Based  
Learning that Fosters Critical Thinking Attitudes  
in Home Nursing Education

2021 年 1 月

早稲田大学大学院 人間科学研究科  
川上 祐子  
KAWAKAMI, Yuko

研究指導担当教員： 向後 千春 教授

## 論文概要

本論文は、看護系大学の看護基礎教育における在宅看護論の看護過程の授業を対象に、TBLを導入した授業モデルを検討し、批判的思考態度に与える影響、および、看護実践能力の修得状況を明らかにするものである。

第2章(研究1)では、看護基礎教育における授業設計の検討に際して、批判的思考力に影響を及ぼすとされているTBLとPBLの位置づけを授業設計の観点から明確化することを検討した。その結果からTBLは、PBLよりも学習のゴールが明確であり、インストラクショナルデザインのプロセスを踏まえた教育方法である。さらに、TBLは教員一人でも実施できる教育方法であるが、PBLは学習者に応じた人的リソースが必要である。また、PBLの学習アウトカムは、学習者の主体性、チューターの力量によって左右され、教育方法としての脆弱性も否めないことが示唆された。したがって、在宅看護論の看護過程の授業には、PBLの脆弱性を鑑みると、TBLの方が適当であると考えられた。

第3章(研究2, 研究3)では、在宅看護過程の授業にTBLを導入し、批判的思考態度を醸成する授業モデルを検討した。研究2では、TBLの方略を用いた場合、協同作業に対する認識が、批判的思考態度に与える影響を検討した。その結果、「協同効用」「論理的思考への自覚」「探究心」「客観性」が受講後に向上した。また、交差遅れ効果モデルを用いて概念間の因果関係を検討したところ、TBLを導入した在宅看護過程の受講前に「個人志向」の認識が高かった学生は、受講後に「客観性」と「証拠の重視」を高めることが示された。しかしながら、受講前に「協同効用」に良いイメージを持っていた学生は、実際にグループワークを行っても批判的思考態度が高まるわけではないことも示された。その理由として、グループ活動を行った場合、学習者の高次の問題解決に適切なインストラクションや指導がなければ、学習者が単独で問題解決を行う発達段階に移行することが難しいと推察される。そのため、批判的思考を高めるための支援や能動的な学習ができるよう足場かけが必要と考えられた。

研究3では、Brunerの足場かけを充実させるプロセスとして、TBLに適用しやすいと考えられる「補強（学習者の興味を引きつける）」および「デモンストレーション（学習者の目の前で、課題の解決を示し、単純に課題を実行する）」を適用し、足場かけの事前解説の提示を行い検討した。その結果、TBL単独に比べ、TBL前に足場かけの事前解説を提示することによって、批判的思考態度として「論理的思考への自覚」「証拠の重視」が受講前よりも受講後に高まった。くわえて、受講前に「協同効用」に良いイメージを持っている学生であっても、批判的思考態度として「論理的思考への自覚」「探究心」「証拠の重視」が高まった。足場かけの事前解説は、在宅看護過程を学習する学生が能動的に学習できるように、学生のレディネスと同じ照準に合わせて、足場かけを構成し、サポートを行っている。そのため、学生の現在の発達領域に極めて近い発達領域を示す先輩学生の解決法を教示することによって、ZPD（最近接発達領域）が移行しやすい状態を作り出したと考えられる。足場かけの事前解説とした先輩学生の考え方や問題解決方法は、学生にとってまねやすく、学生が単独で問題解決を達成できる発達領域への移行を促進したと推察される。また、学生は、難しい看護過程の課題に対し、順序立てて考えるようになり、思考の外化によってグループ活動が活発となったことにより、批判的思考態度に影響を与えたものと示唆される。

第4章（研究4）では、TBLを受講した学生の学習アウトカムとして、看護実践能力に着目し、授業モデルの有用性を検討した。在宅看護実習の学習概念を抽出し、看護教育学モデル・コア・カリキュラムとの照合により、看護実践能力の修得状況を検討した。計量テキスト分析により生成された、在宅看護実習で得られた学習概念は、「他職種との連携」「利用者への寄り添い」「家族の介護力」「家族の不安・負担の軽減」「時間的な制約」「アセスメント」「病棟と在宅の違い」「物品資源の制約」「コミュニケーション」「ニーズ」であった。これらの得られた学習概念は、看護教育学モデル・コア・カリキュラムの視座を捉えていた。

以上より、TBL単独よりもTBLに足場かけの事前解説を導入することで批判的思考態度の向上が示された。さらに、学習のアウトカムとして、看護実践能力の修得状況を明らかにしたところ、授業モデルの有用性が示唆された。